

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成29年9月28日(2017.9.28)

【公開番号】特開2017-13722(P2017-13722A)

【公開日】平成29年1月19日(2017.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2017-003

【出願番号】特願2015-134868(P2015-134868)

【国際特許分類】

B 6 0 R 19/04 (2006.01)

B 6 0 R 19/18 (2006.01)

【F I】

B 6 0 R 19/04 M

B 6 0 R 19/18 Q

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月18日(2017.8.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

図10はバンパリインフォースメント14の変形量に対する荷重の変化を従来技術と本実施形態とを対比して示す線図である。図10の線図において、Gは従来技術、Hは本実施形態を示す。この両者の比較線図から良く分かるように、座屈タイミングは従来技術では変形量m1の位置であったのに対し、本実施形態では変形量m2の位置となり、変形量mdだけ遅れて生じる。これにより座屈が生じるピーク荷重も従来技術ではn1であったのが、本実施形態ではn2となり大幅にピーク荷重の増大も図られる。評価試験結果の数値は、従来技術Gの座屈荷重(ピーク荷重)n1が133KNで、その変形量m1が35mmであったのに対し、本実施形態では座屈荷重(ピーク荷重)n2が243KNで、その変形量m2が56.8mmである。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

図12はエネルギー吸収量効率比較を示す。エネルギー吸収量効率とは〔エネルギー吸収(EA)量/バンパリインフォースメントの質量〕である。従来技術を100とした場合、本実施形態は200という高い値の効率を得た。なお、本説明でのエネルギー吸収(EA)量は、従来技術および本実施形態それぞれについて、図10に示す線図の変形量0mm~150mmまでを積分して求めた値としている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図12

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 2】

